

新たな挑戦

昭和50年

伝統と



八女福島の燈籠人形が国の重要無形民俗文化財に指定
昭和52年（八女）

昭和時代後期には、八女市周辺の伝統文化に新たな光が当てられました。昭和50年には田崎廣助画伯が文化勲章を受章されています。昭和52（1977）年には、江戸時代後期からの伝統を持つ「八女福島仏壇」が国の伝統的工芸品に、江戸中期に始まったとされる「八女福島の燈籠人形」が国の重要無形民俗文化財に「松延家住宅」が国の重要文化財に指定されました。昭和59（1984）年には、江戸末期頃、九州各地から出稼ぎにきた人々により唄われ始めたとされる茶摘み唄を競う「八女茶山唄日本一大会」が黒木町でスタートしました。「星のまつり」「じょうようまつり」など、地域の祭りがスタートしたのもこの頃です。

昭和51（1976）年には、立花町がほたる保護条例を施行し、町内全域を「ほたる保護区」に指定。昭和53（1978）年には、北部九州最大の前方後円墳、岩戸山古墳を中心とした、八女丘陵上の主だった古墳が「八女古墳群」として国の史跡に指定されました。

昭和54（1979）年には、大牟田市・立花町・黒木町という福岡県南部のみかん産地を縦貫するオレンジロードが開通しました。その一方で、国鉄矢部線が昭和60（1985）年に40年間の歴史に幕を閉じ、お別れ式典が敢行されました。



八女福島仏壇が国の伝統的工芸品に指定 昭和52年（八女）



星野村総合体育館竣工 昭和52年（星野）



岩戸山古墳

昭和30年12月23日に国の史跡に指定された。昭和53年3月24日付けで、史跡の統合・追加・名称変更が行われ、指定名称が「八女古墳群」になりました。（八女）



八女茶山唄日本一大会を初めて開催 昭和59年（黒木）



国鉄矢部線が廃止され、お別れ式典を実施 昭和60年（八女）



「黒木町音頭」レコード完成（歌 三波春夫） 昭和58年（黒木）



市制施行30周年記念式典 昭和59年（八女）



広域基幹林道奥八女線の開通 昭和60年（矢部）



柚の大吊橋 昭和63年（矢部）